

# 中病棟 7階

(循環器内科、共通)

## 1. 看護単位の概要

病床数 43床

循環器内科 38床 共通 5床

## 2. 病棟の特徴

### 1) 循環器内科

虚血性心疾患や大動脈・末梢血管に対する薬物治療・血管内治療、不整脈に対するカテーテル心筋焼灼術、ペースメーカー・植込み型除細動器植え込み術、重症大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁置換術、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術、肺高血圧症の薬物治療・バルーン肺動脈形成術、心不全に対する薬物療法・両室ペーシング、重症心不全への集学的治療を主におこなっている。

循環器疾患看護においては、病状の変化が生命に直結するため、的確なアセスメント能力と判断が求められる。そのため、日々最新の知識を習得しエビデンスのある看護の提供に努め、急変時のトレーニングは ACLS インストラクターの元、循環器医師とともにおこない、安全かつ迅速に対応できるようチームとしての体制も強化している。

心筋梗塞や重症心不全など ME 機器管理が必要な患者は集中治療室で管理されるが、病状が安定次第、病棟での受け入れを行っており、集中治療室からの後方ベッドとしての役割も担っている。

循環器疾患患者は、療養生活が QOL や予後に大きく影響するため、早期から生活指導を実施し、外来や地域社会へ情報提供し切れ目のない治療や看護をおこなっている。心臓リハビリも病棟看護師が担当し、患者のニーズと心機能に応じたプログラムの提案をおこなうなど、専門性の高い看護を提供している。

近年、超高齢者や認知症、独居、重複疾患など、病態だけでなく患者背景・環境が複雑化しているケースも多く、できる限り患者・家族の思いに沿った療養生活ができるよう多職種と連携・協働し支援している。2024年度より、心不全多職種カンファレンスを不定期で開催し、主に心不全患者さんの再入院予防に向けて、それぞれの職種の専門性を活かしたカンファレンスを実施している。